

「保健体育」（応急手当）学習指導案

1. 日時 令和7年10月29日（水） 第4時限（11:25～12:05）
2. 場所 多目的室1
3. 学部・学年・組 高等部
4. 単元（題材）名 「応急手当をやってみよう！」

5. 単元（題材）目標

- ①けがや病気になったときの対処法を理解する。【知識及び技能】
- ②自分やグループの課題を見つけ、解決のために仲間と考えたり工夫しようとしたりする。
【思考力、判断力、表現力】
- ③その時に応じた必要な応急手当の方法について考えることができる。
【学びに向かう力、人間性等】

6. 生徒観

本校高等部の当学年の保健授業では、より実態に応じた授業展開ができるよう3班編成で行っている。本グループは1～3班のうちの3班で、中学部1段階から高等部2段階の生徒がいる。

本校高等部では、保健の授業を通年で4時間以上行うように設定しており、本グループのこれまでの保健の授業では、感染症や生活習慣病とその予防、熱中症や傷害の防止についての授業を行ってきた。自身の生活や経験と結びつけて考え、興味関心を持ち、共感したり質問したりするなど積極的に発言する生徒が多いが、注目を浴びることが苦手で活動に参加することが難しくなる生徒もいる。このような生徒も、ワークシートを準備することで様々な疾病を予防するための方法を考えたり、自身のストレス発散法を振り返ったりして記入することができている。心肺蘇生法に興味を持ち、自身で消防署に申し込みをして、心肺蘇生法の講習を受けに行ったことがある生徒もいる。

体調不良を訴えることができる生徒もいるが、よく鼻血を出す生徒や友だちと遊んでいて転倒したり捻挫をしたりする生徒、体調不良やけがをすぐに伝えられない生徒もいる。

7. 教材観

本グループの授業では、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 中学部2段階 H保健に記載されている「ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。」と「イ 自分やグループの健康・安全の課題を見付け、その解決のために友だちと考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。」に重点を置いて授業を行っている。グループ内でも発達段階に差があるため、実態に応じて個別の支援を行っている。

応急手当とは、けがや急病時などの緊急時にその場にいる人がすぐに行う痛みや腫れ、内出血などの症状の悪化を抑えたり苦痛の軽減をさせたりするものである。応急手当や心肺蘇生法は、直接命にかかわる行動である。健康そうに見えていたのに突然死してしまう原因の多くが「心臓突然死」であり、日本では、毎年7万人の人が心臓突然死で亡くなっている。命を助けるためには、倒れた直後の応急手当が重要である。胸骨圧迫をすることにより、救命率は2倍に上がり、さらにAEDを用いて電気ショックを行うことで、多くの心停止の人の命を救うことができる。このことから、本単元を学習することで、生徒が「命は大切なもの」「誰かを助けられる」という感覚を育むきっかけとしたい。

8. 指導観

本単元を通して応急手当や心肺蘇生法を体験し、自分でできる応急手当の方法を知り、実際に自身がけがをしたときに、他人に知らせたり、応急手当ををしたりする力を養いたい。

ICT機器を使うことにより、外傷や病状に応じた応急手当の行い方を映像で確認をしたり、心肺蘇生法の流れを確認したりすることができる。また動画撮影を行うことにより、生徒自身が自分の動きを確認し、振り返られるようにしたい。注目を浴びることが苦手な生徒へは、実践の参加の有無を確認し、実践が難しい場合は、同じグループの仲間の動画撮影の役割を依頼し、活動に参加できるように支援を行う。

ダミー人形や練習用AED、胸骨圧迫練習キットを使用することで、卒業後、けがをしたときや人が倒れている場面に遭遇したときには、通院するまでにできる応急手当や心肺蘇生法を実践しようとする力をつけたい。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①熱中症の症状や応急手当、予防について答えることができる。 ②けがをしたときの応急手当について、2～3択のクイズに答えることができる。 ③応急手当の実践を行うことができる。 ④心肺蘇生法の流れを確認することができる。 ⑤適切な力加減でテンポよく胸骨圧迫の練習をすることができる。 ⑥練習用AEDを使用することができる。	①熱中症にならないために気を付けたいことを考え、伝えることができる。 ②応急手当の意義について考えたことを伝えることができる。 ③傷害に応じた適切な応急手当を考えることができる。 ④心肺蘇生の意義について考えることができる。 ⑤実習を通して感じたことを伝えることができる。	①熱中症についてのプリント学習に取り組もうとしている。 ②けがをしたときの応急手当のクイズに答えようとしている。 ③応急手当や心肺蘇生法の練習に参加しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全7時間、本時は第6時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	○熱中症について	・熱中症の症状について、どのようなことが起こるかを、生徒に発問し考えられるようにする。	B① C①
	2	○熱中症の予防・応急手当	・熱中症の重症度別の症状を伝え、プリント学習やタブレットでの調べ学習を通して症状が出たときの対応方法を考えられるようにする。 ・暑さ指数系を提示し、暑さ指数が31度を超えると熱中症リスクが高く、屋外での運動は原則中止ということを伝える。	A① B① C①

2	3	○けがの応急手当の意義・手順	・プリントや映像を確認したり、生徒に発問をしたりしてRICE処置について、考えられるようにする。	A② B② C②
	4	○けがの応急手当の実践	・グループに分かれて実習を行うことができるようにする。 (直接圧迫止血法、アイシング、やけどや鼻血が出た時の対応)	A③ B③ C③
3	5	○心肺蘇生法の意義・手順	・「応急手当WEB講習」を視聴し、救命処置の手順と応急手当の方法を学ぶことができるようにする。 ・プリントを使用し、心肺蘇生法の流れを確認できるようにする。	A④ B④
	6	○心肺蘇生法の実践	・心肺蘇生キットやダミー人形を用いて心肺蘇生法の実践をできるようにする。 ・タブレット端末で動画撮影を行い、振り返られるようにする。 ・練習用AEDに触れることで具体的な練習ができるようにする。	A⑤ A⑥ C③
	7	○応急手当、心肺蘇生法のまとめ	・前回、感じたことを生かし、心肺蘇生法の流れを再度実践し、確認できるようにする。	B④ B⑤

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・心肺蘇生の手順を知り、実践する。【知識・技能】
- ・施設や用具の安全な使い方を知り、仲間と協力しながら、けがのないように気を付けて行動することができる。【思考力・判断力・表現力】
- ・適切な力加減で心肺蘇生の体験を行うことができる。【学びに向かう力・人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・音が鳴る強さで圧迫することができているか。
- ・リズムに合わせた圧迫ができているか。
- ・道具の使用方法を守ることができているか。
- ・心肺蘇生の手順で実践しようとしているか。

(3) 本時の ICT 活用のポイント (活用のねらい、工夫する点)

- ・心肺蘇生の手順や方法を動画で確認し、イメージできるようにする。
- ・流れをモニターに写しておくことで、生徒が自ら確認しながら実習できるようにする。
- ・動画を撮影し、振り返ることで自身の動きや仲間の動きを振り返ることができるようにする。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導 入	<p>○あいさつ、出席確認</p> <p>○本時の流れを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①心肺蘇生法の流れを確認する。 ②胸骨圧迫の体験 ③心肺蘇生法の練習 ④片付け ⑤振り返り</p> </div> <p>○心肺蘇生の流れの確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を1名指名し、あいさつするよう促す。 ・見通しを持つことができるよう、本時の流れをホワイトボードに記入する。 ・図で心肺蘇生の流れを確認した後、動画で流れを確認する。(ICT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・C③ ・C③ ・A④ ・C③
20分 展 開	<p>○胸骨圧迫の体験を行う。</p> <p>○心肺蘇生の実習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれて練習ができるようにする。 ・マットを2枚用意し、マットの上で胸骨圧迫の練習を行うことができるようにする。 ・心肺蘇生練習キット(あっぱくん)を各グループに1つ置き、練習できるようにする。(1人30回圧迫) ・グループ内で胸骨圧迫の練習をする順番と、動画撮影係を決め、動画撮影を行う。(ICT) ・リズムよく、絶え間なく胸骨圧迫ができるよう、胸骨圧迫のテンポ音をながしておく。(ICT) ・各グループにTTが入るようにする。 ・各グループで役割を決め、協力して心肺蘇生の実習ができるようにする。 (ICT) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>役割：発見者・AED・救急車要請・ 動画撮影・胸骨圧迫交代</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに1枚プリントを渡し決めた役割を記入できるようにする。 ・グループ内で役割のローテーションを行えるようにする。 ・ダミー人形とAEDを使って実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A⑤ ・B③ ・B④ ・C③ ・A⑤ ・A⑥ ・B④ ・C③
10分 ま と め	<p>○振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダミー人形を用いて心肺蘇生の練習を行ってみた感想を聞く。(力加減や対応の流れなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・B⑤

	<p>○学校のAEDの場所の確認</p> <p>○あいさつ</p>	<p>・保健室の前にあることを伝える。</p> <p>・日直に号令をかけるよう、言葉がけをする。</p>	<p>・C③</p> <p>・C③</p>
--	-----------------------------------	--	-----------------------

(5) 教室配置

